

事業コード	H16-農-終-2			区分	国庫補助・(県単独)
事業名	ふるさと農道緊急整備事業整備事業			部局名	農林水産部
事業種別	農道整備			課室班名	農山村振興課 (tel)1859
路線名等	湖南地区			担当課長名	川原幸徳
箇所名	天王町天王			担当者名	岩井寛明
総合計画との関連	政策コード	T	政策名	潤いとやすらぎを提供する農山漁村空間の創造	
	施策コード	01	施策名	快適で生き生きした農山漁村づくり	
	目標コード	09	施策目標名	その他施策関連事業	

1. 事業の概要

事業期間	H10～H14(5年)	総事業費	15億円	国庫補助率	-	
事業規模	延長 L=1,359m 幅員 6.0(8.5)m					
事業の立案に至る背景	<p>本地域は、日本海と八郎湖に挟まれた平坦地で、米を中心に大豆や梨等の果樹に加え、施設栽培による花卉生産などが推進されている。しかし、国道101号とJR男鹿線が地区を縦貫し、農地は湖側と海側に分断され、地区内を連絡する現況道路はJRの踏切横断や市街地の狭小な箇所の通行を余儀なくされていたため、農産物輸送等に多大な支障を来していた。</p> <p>さらに、町中心部にある図書館・体育館等の公共施設の利用や小中学校への通学においても不便で、かつ危険な状況にあった。</p> <p>また、地区の中央部にカントリーエレベーターや大豆乾燥調整施設がH10～H12に整備されることになってきたことから、農業施設の有効利用を図り、併せて公共施設等への安全な通行確保等一般交通の利便性向上を図るため、湖側と国道101号を連絡する基幹道路を緊急に整備する必要がある。</p>					
事業目的	農産物等の流通合理化 農村地域の振興 農村地域の生活環境の改善					
事業費内訳	(単位:千円)					
事業内容		当初計画	最終	最終コスト比較 $C/C = (0.95)$ 最終費用便益比 $B/C = (-)$		
	事業費	1,532,000	1,463,000			
	経費内訳	工事費	845,607			774,419
		用補費	560,343			559,799
		その他	126,050			125,782
	財源内訳	国庫補助				
		県債	993,000			1,053,000
その他		276,000	292,600			
一般財源	111,000	117,400				
事業内容	新設工 跨線橋 1箇所	新設工 跨線橋 1箇所				
事業終了後の問題点	なし					
住民満足度等の状況(事業終了後)	満足度を把握した対象 受益者 <u>一般県民</u> (時期: 16年8月) 満足度把握の方法 <u>アンケート調査</u> 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に) 満足度の状況 住民へのアンケート調査から、農家では通作や田畑、農業施設への移動時間の短縮や大型農業機械の搬入が容易になったこと等を7割以上の方が評価している。また、半数以上がほぼ毎日、本路線を利用しており、7割以上の方が公共施設へのアクセスなどの利便性向上を評価している。					
上位計画での位置付け	総合計画における施策「快適で生き生きした農山漁村づくり」を支援する事業					
関連プロジェクト等	なし					

前回評価結果等	選定または継続 指摘事項	改善	見直し	保留または中止	
	指摘事項への対応				
事業効果把握の手法及び効果	指標名	県全体における農道整備		データ等の出典	「あきた21総合計画」 前期計画（H12～H14）
	指標の種類	成果指標	業績指標		
	指標式	農道整備延長 / 農道整備計画延長			
	目標値 a	185 km			把握の 時期 15年3月
実績値 b	216 km				
達成率 b / a	117 %				
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由					
具体的な把握方法と成果（見込まれる効果） データの出典含む					
○地域住民を対象としたアンケート調査により、事業の満足度等を把握する。					

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価結果
有効性	住民満足度の状況 A B C	A B C
	住民へのアンケート調査から、農家では農地や農業施設への移動時間の短縮や大型農業機械の搬入が容易になったこと等を7割以上の人が評価している。また、半数以上がほぼ毎日、本路線を利用しており、7割以上の人が公共施設等へのアクセスなどの利便性向上を評価している。	
	事業の効果 A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満	
	「あきた21総合計画」の前期実施計画の目標を達成している。	
効率性	事業の経済性の妥当性 A B C	A B C
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	
	○アスファルト廃材の再生利用などコスト縮減に取り組んでいる。	
総合評価	A（妥当性が高い） B（概ね妥当である） C（妥当性が低い）	
	農地、農業用施設や公共施設等への移動時間短縮、災害時の迂回路確保など地域住民の満足度は高いことから概ね妥当である。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等（対応方針）

農道網の基幹的位置付けであり、高生産性農業の実現と農村地域の生活改善に寄与することから、引き続き事業を推進する必要がある。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。